

科目番号	52108	分類	助産診断技術学	履修者	高度実践助産コース	学年	2		
科目名	助産臨床推論 (Midwifery Clinical Reasoning)						2		
							配当セスター 前期		
担当者	○佐藤いずみ 他1名	区分	助産師プログラム	必修	○	単 位	1	時 間 数	15
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連			
<p>【概要】 本科目では、助産師としての自律的な判断スキルをもち、適切な時期に、適切な判断ができるための臨床推論に関する知識・技術等を習得することを目的とする。講義では臨床推論の基本的な概念を理解し、助産におけるフィジカルアセスメントのシミュレーションを行い、基本的な診断技術を習得する。また、仮想の事例を用いて、医師の臨床診断における診断の概念や疾病の定義、診断仮説（鑑別診断）の設定および確定診断への絞り込みのプロセスを学ぶ。分娩経過のリスク判断とガイドラインを遵守した対応を理解し、講義を通じて社会に求められる周産期医療連携の在り方に対する見識を深めるとともに、臨床推論の基本的な能力を修得し、より自律した助産師の育成を図る。</p> <p>【目標】 1. 臨床推論に関連する基本的な概念および助産における臨床推論の意義を説明できる。 2. 臨床推論に用いる基本的な診察技術（医療面接・身体診察・検査など）を説明できる。 3. 事前確率からルールイン・ルールアウトすべき診察（検査含む）を説明できる。 4. 対象の主訴から疾患の頻度と緊急性を意識した鑑別診断のリストを示し、重症度や緊急度から暫定的に確定診断を絞り込む臨床診断の思考プロセスを説明できる。 5. 正常な分娩経過が異常に移行するリスクを速やかに、かつ、適切に判断する重要性を説明できる。 6. 助産診断における臨床推論の活用について説明できる。</p>						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力		
						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力		
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力		
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力		
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力		
							6.研究・開発能力		
							7.倫理的意思決定能力		
授 業 計 画									
回	内 容						担当教員		
第1回	臨床推論に関連する基本的な概念と助産における臨床推論の意義						佐藤 他1名		
第2回	臨床推論の思考プロセス（情報収集、鑑別診断、仮説の検証、確定診断）								
第3回	臨床推論事例展開①（妊娠初期によくある主訴）								
第4回	臨床推論事例展開②（妊娠中期によくある主訴）								
第5回	臨床推論事例展開③（妊娠末期によくある主訴）								
第6回	臨床推論事例展開④（分娩期、産褥早期によくある主訴）								
第7回	助産師が用いる医療面接・身体診察の技術 ―臨床推論への応用―								
第8回	具体的事例に基づく臨床推論の展開臨床推論の思考プロセスの実践（演習）								
事前・事後学習	事前学習：各回の必携図書で該当する部分を読んでくる。事前課題レポートを課す。 事後学習：単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。								
評価の方法	課題・レポート50% ディスカッション50%								
参考図書 ・資料等	参考書は適宜紹介する。								
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 フィードバックは適宜行う。								